

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所)

事業者名	グループホーム仁木 やすらぎの里	評価実施年月日	平成21年3月12日
評価実施構成員氏名	平山 すみ子・塩野裕子・宇生哲子・中村優里・岡本明子・米田真由美・菅康子・吉田恵子		
記録者氏名	平山 すみ子	記録年月日	平成21年3月12日

北海道

(事業所所在地:仁木町)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>1)運営理念に沿って、入居者の方々の生活史を大切に、ご家族様との連携を取りながら、それぞれの生き方に沿った生活支援を行っている。 2)認知症に伴う周辺の緩和に努め、穏やかな毎日が送れるように支援している。 3)近隣の方々との交流を多くもてる行事計画を実施している。4)人権・個々人の生活史を大事にし、御家族様より情報を得ながら日々の実践に役立てている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>1)管理日誌での申し送りと交替時の口頭申し送り等で伝達・情報の共有を行っている。 2)出勤時に前日の様子を介護記録で確認してから業務に就く。 3)毎月職員会議でサービスの振り返り・毎月の行事等の検討(理念に即しているかを検討) 4)討議した内容はケアプランに反映させていく(理念の共有) 5)ケアプランに沿った支援(理念の実践)と記録</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>1)町内会の総会等でグループホームの紹介・災害時の協力等の依頼を毎回行っている。 2)近隣の方々との交流(慰問の【受け入れ】・依頼などを毎年定期的に行い交流を図っている。 3)地域へ行事・催し物への参加・お祭り見学・初詣・合唱発表会への参加 4)パンフレットでの紹介・地域での勉強会等への参加4)事業所主体の夏祭り・花火大会・秋祭りなど毎年恒例となっていることを通し、地域との交流が図れている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>1)施設周囲を散歩時に挨拶・声掛けなど行うようにしている。 2)近所の利用者さんの友人が小物作成と一緒にいたり、飾り物作りの指導をする。 3)環境整備時に隣接する農家の方が境界線を草刈をしてくださる。 4)野菜の行商の方が立ち寄る。5)入居者の友人の方が仕事の帰りに気軽に立ち寄り世間話をしていく</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>1)町内会の総会に毎年出席する。 2)慰問などの交流を通してグループホームを知っていただくようにしている。 3)地域へ行事・催し物への参加・お祭り見学・初詣・合唱発表会・文化祭への参加 4)パンフレットでの紹介・地域での勉強会等への参加 5)事業所主体の夏祭り・花火大会・秋祭りなど毎年恒例で行い交流を図っている。</p>	○	地域の小グループ単位(たとえば町内会・サークル・などへも出かけていき学習会等も行って行きたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>1)「認知症を知る」学習会の講師を行い地域の認知症高齢者への係り方の普及に役立てられた。 2)今後も機会を設け地域の福祉行政の一役になれる取り組みを進めて行きたい。</p>	○	同上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	1)定期的に各居室にて管理者が話しを聞く機会を設けている。 2)職員を担当制にし、日頃の対話の中で意識的に聞くようにしている。3)運営推進委員会への出席は交替制で行い(毎回1名ずつ)、日頃の思いなどを話していただくようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	1)最低でも1ヶ月に1回は面会等がありそのときに時間を設けてご家族の思いや日頃の様子を伝えている。又、必要時は都度電話等で確認したり同意をもらうなどの対応をしている。2)金銭は預かり金制とし、その中から必要な経費(利用料以外の)を出し、代行で購入したり、買い物に同行したりしている。3)希望で自己管理をされている方が1名おり、ご家族、本人とも管理面の注意事項・紛失時の責任等に対する理解は了解されている。4)職員の異動等についてはお知らせしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	1)年1回の家族懇談会の中で意見を出し頂いている。 2)外部評価に合わせ、評価機関が家族アンケートを実施し、評価時に公表される。 3)アンケート結果は職員会議で検討し、サービス内容や対応の改善につなげている。	○	1)グループホームとしてのご家族アンケートも行って行きたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1)日常的にも随時行っているが、主に定例の職員会議で聞くようにしている。 2)出された意見は職員会議で検討し、結論を出すようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	1)行事・レクリエーション時には職員配置を多くしたりなど工夫に努力している。 2)勤務調整は随時行いながら、利用者の安全と不安への対応に配慮している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	1)今後生じる場合は配慮していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1) 計画的に行っている。 2) 次期担当者の育成などを計画的に行っている。 3) 必要な研修や先進的な取り組みしている研修会等への参加などを積極的に進めている。 4) グループホーム協議会等団体への参加を通して視野を広げた人材育成を行っている。	
20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	1) 支部研修会・交流会へ参加し、情報交換を行っている。	
21	<input type="checkbox"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	1) 室内だけではなく外での活動が出来る環境づくりを行って取り組んでいる。 2) 定期的に懇親会等を企画し職員間の交流を図っている。	
22	<input type="checkbox"/> 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	1) 業務に担当制を配し、主体的に役割が持てるようにしている。 2) 個々人の特技を大事にし、役割を作り、勤務の【中で】発揮できるように努力している。例：抹茶を立てる。折り紙が上手・小物作り・お料理・山菜取り・園芸・菜園作りなど多彩な顔ぶれで各自は伸び伸びと力を発揮しており、日常業務の中で活かされている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<input type="checkbox"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	1) 日々行っている。 2) 重度の認知症の場合は御家族様よりお話を聴いたり、本人の表情や行動から判断しながら、思いを確認するようにしている。	
24	<input type="checkbox"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	1) 日常的に行っている。 2) 面会時・電話等で状況報告したりする中でご家族の思い・悩み要望などを聴くようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	1)相談によっては、他事業所の紹介も行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	1)利用者申し込み時に同伴される。2)行事・レク時などに声をかけ一緒に参加していただく3)定期的にお便りを送りホームの状況をお知らせしていく。4)近くに行ったときは自宅に立ち寄るなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	1)小物づくり・台所仕事を一緒に行う。 2)洗濯物干す・たたむなど生活の中で一緒に行えることはやっていたい。3)部屋の掃除を一緒に行う。 4)漬物指導・跡の皮むき・収穫物の選別・庭の手入れなどを一緒に行っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	1)後家族の面会で気持ちが落ち着くときもある。そのようなときは協力を御願います。2)部屋に御家族(なじみの物)の写真や小物等を配置する。 3)外泊を御願います。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	1)行動障害への対応での協力依頼 2)帰宅願望利用者の外泊依頼 3)可能な限り、お盆・正月・ご家族の年中行事等に参加していただくようにしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	1)近隣の知人宅への訪問・お食事会への招待へ参加 2)町内での催し物への参加などを積極的に行っている。 3)遺族会総会・懇親会への参加の送迎 4)なじみの美容室の利用支援		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	1)それぞれのペースに合わせ、1日に2回のお茶の時間などに顔を合わせるようにしている。 2)食堂の席・レクリエーション時の並びなどにも配慮して行っている。3)気の合う人同士のつながりも大切に、職員が配慮しながら関係作りを行っている。 4)関係作りもサービス担当者会議の中で検討する。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	1)行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1)個別の対応や希望は十分に把握して対応している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	1)行っており、現在のサービスには充分繁栄されている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1)週間スケジュール表の作成をして、その上に日々の細かい対応を配している。 2)日々の状況変化は記録への集中で業務に付く場合は必ず目を通すようにしている。3)緊急性がある場合・周知徹底項目は連絡事項の中で伝達してたり・口頭での申し送り・場合によっては緊急サービス担当者会などを開催していく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	1)ケアのあり方は職員会議で評価し、それに基づいてケアマネージャーがプランの【作成】をしている。 2)ご家族からの意見や要望・情報などを充分に取り入れたないように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1)基本的には3ヶ月に1回の見直しとしている。変更内容は御家族面会時に説明している。大きく変更する場合はご家族の【同意書】頂いている。 2)細かい変更は介護記録又は、管理日誌の伝達事項にて周知徹底を図っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	1)記録はパソコン入力で行い、分野・項目別に分かれていて情報を分類でき、見やすい内容で、毎日出勤者は前日・夜情報を確認してから業務に入る。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	1) 毎月自宅外泊をして好きな農作業をしたいとの希望に沿ってご家族が来られないときは送迎支援をおこなっている。 2) 定期的に美容院でパーマ希望時送迎支援をおこなう。 3) 外食希望があれば、スタッフ付き添いでホームの車で送迎。付き添い支援をおこなっている。(小樽・札幌の回転寿司へ送迎支援をおこなった) 4) 「飼い猫に会いたい」など自宅訪問希望時の送迎支援 5) 喫茶店での飲食や町主催の文化祭・作品展示・敬老会などへの参加時の送迎支援 6) 札幌・小樽・ニセコなどへの花見・紅葉狩りドライブ・温泉ドライブなどの送迎支援		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察・消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	1) 行方不明時の捜索体制などを想定し、協力体制は御願ひしてある。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	1) 日常的に地域のケアマネージャー・包括支援センターとの相談の上行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	1) 待機中の方に関しては包括支援センターのケアマネージャー等と状況判断しながら進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1)必要に応じてかかりつけ医の往診を受けながら進めている。 2)必要時は他院紹介や入院調整をしていただいている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	1)専門医との連携も取りながら行ってる。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	1)兼務であるが、事業所として看護職を確保している。週3回のバイタルチェックを行い、症状出現時は速やかに対応できている。 2)主治医と相談の上必要な専門医への紹介等も行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	1)連携でき、速やかに対応できている。2)退院後の指示・指導も充分にされている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	1)現在取り組みが行われており都度状況に合わせて本人・ご家族との話し合いを持ちながら対応している。 2)看取りのケア手順・説明・同意書類等の準備中である。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	1)現在取り組みが行われており都度状況に合わせて本人・ご家族との話し合いを持ちながら対応している。 2)看取りのケア手順・説明・同意書類等の準備中である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	1) 居宅に戻りたいとの希望時は対応していくが現在の状況からは想定できる対象者はいない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	1) 十分に確保されている。 2) 利用者間でのやり取りの中で時折相手を傷つけるような会話が見受けられるが職員の対応でフォローしている。 3) 記録は御家族様にも開示できるように書かれており、言葉を選んで記載しているが、どうしても伝えたいときは本人の言った言葉をそのまま記録するようにしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	1) 理解できる言葉を選んで、生活習慣に合わせた言葉や表現で支援している。ジェスチャーなどで伝えるなどで理解を図っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1) 個々人のペースを大事にし、対応している。希望には十分に沿っている。縫い物をしている人・寝ている人・居室でテレビを見る時間などは制限していない。 2) 日課を作り最低限(リハビリ・お茶の時間・食事)は一堂に会していただいている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	1) 美容院御家族での希望者3名・希望に沿い、送迎をして支援している。 2) 衣服の選択は数人を除いては自立されている。 3) 清潔な衣類の着用はなされている。 4) 誕生会・行事・外出時等に合わせ衣服の着用に配慮している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	1) 嗜好は入居時に確認するが、随時希望等を聴き、取り入れて楽しみのある食事作りを工夫している。 2) 季節の折々の食べ物は昔から伝わる物を入れる(山菜・べこもち作り・七草粥・巻寿司・いなりずし・漬物) 3) 漬物指導・いなりずし作り・べこもちは利用者と一緒に作るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	1)希望時は提供しているが希望されることは少なく行事や誕生日・お祝い時等には進めている。 2)頻度に関して本人の希望に全面的には添えない場合があるので健康・生活状況見ながら行っている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1)失禁のパターンの把握をおこない、できるだけ失禁を予防できる取り組みを工夫している。 2)排便コントロールも自然な排便を大事にしながら行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1)入浴日は決めている。1週間で月・火・金・土の4日間であるが毎日の希望があれば浴うことができる。時間に関しては午後からということで決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	1)日中は椅子で横になりたい人には長いすで休んでいただけるように3脚用意し、掛け物・クッションなども用意している。 2)一人掛け用のイスを居間から離れた場所に設置するなど心理面への配慮もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1)全体の楽しみとして、ドライブ・外食・花見・公園に出かける機会を計画している。 2)季節ごとの行事などを毎月の活動の中に取り入れている。 3)誕生会・敬老の日などの行事時にはゲートボール・ボーリングなどを行っている。 4)野菜作り・鉢植え・花作りなどの役割を担ってもらい・小物など作った作品を外来者にさし上げる・町の文化祭に展示するなど目標を持って行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	1)金銭は紛失などのトラブルになるため基本的には持たせないことで御家族・利用者の同意を得ている。 2)購入希望時は代行又は買い物に同行している。(預かり金の中から支払う)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	1) 支援しているが、現実的には余り希望はなく冬期間はほとんど外出することはない。 2) 散歩なども声掛けでようやく出かける状態である。 3) 前庭に作っている花・野菜などの観賞が主な目的で天気の良い日は日光浴もかねて気分転換の機会としている。 4) 野外食を年3回ほど企画し戸外での食事を楽しんでいただいている。雨などで中止になることもあるが楽しみにされている。ピクニックもかねてホームから離れた行楽施設等に弁当持参で出かけることも企画している。 5) 近所の友人宅や会合などへの出席支援も行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	1) 行っている: ドライブ・外食・花見・公園など小グループに分けて行った。季節ごとの行事などを毎月の活動の中に取り入れている。 2) 日帰り温泉ツアーを行っている。 3) 希望時の自宅訪問や外出(スーパー・喫茶店)・御家族との温泉旅行などが行われている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	1) 御家族への電話連絡の代行を行っている。2) 連絡先を調べる支援。	○	1) 年賀状・暑中見舞いなどの作成支援
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	1) 面会者へのお茶の接待 2) 居室でくつろげるようにイス・小テーブルなどの用意する 3) 宿泊支援・食事の支援(宿泊代は無料・食事代=1食400円で提供) 4) 面会時間制限は設けていない。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	1) 身体拘束は行っていない。 2) 身体拘束廃止推進委員会を位置づけ日頃より意識を持ってケアに当たる工夫を行っている。 3) 研修会等への参加を進め、職員の資質向上を図っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	1) 居室の施錠は行っていない。 2) 現在帰宅願望が強く無断で出て行かれる方は1名である。状態の様子を見ながら玄関施錠を解いている。夕方や落ち着きが無くなり始めた時点で施錠するなど工夫をしながら行っている。 3) 外玄関に出入りを知らせるオルゴールを設置し行方不明・事故・事件の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	1)日中は日勤リーダーが利用者の所在確認に責任を持ち所在確認を行っている。 2)夜勤時は9時巡回・0時巡回・3時巡回・6時起床介助で確認を行っている。 3)体位変換者・排泄介助者は随時介助し転倒防止に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	1)裁縫道具・鋏・かみそり・果物ナイフ等は個人管理可能な方には居室管理としている。 2)爪ぎりは介助必要な方は介助で行っている。 3)ライター・マッチは持ち込み禁止としている。 4)仏壇の線香は禁止・ろうそくも電気製品で代行していただいている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	1)無断で外へ出て行く方への対策として、日中玄関の施錠(上下2箇所)の様子を見ながら行っている。2)餅・一口大のゼリー・団子等は刻むなどして工夫して提供・嚥下困難者には水分にトロミをつけて咽・飲みこみの改善を図ったり、刻む・潰すなどの工夫も行っている。3)歩行困難者への歩行器使用及び移動時の見守り・履物への配慮もしている。4)日常的に避難・個々人対応の意思統一と・年2回の火災時非難訓練を(実施している。5)内服薬管理は看護師が行い、投薬時3回点検(薬配箱より取り出すとき・開封時・介助時)全スタッフに日常的に指導している。		
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	1)転倒事故発生時の訓練は出来ている。 2)応急処置学習会も随時職員会議等で行っている。誤薬・外傷・意識喪失・骨折・喉つまりなどの対応を学習している。	○	1)定期的な訓練(実技)を実施していく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	1)町内会への協力要請・近隣施設との協力体制・災害時備蓄品(水・非常用食品=乾パン・缶詰など)の準備はされている。 2)利用者の避難訓練指導は理解・協力は困難な方以外は説明指導を行っている。 3)運営推進委員会や評議委員会・理事会などでお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	1)入居時に説明している。 2)状況の変化は面会時や随時連絡を取り説明と同意を得ながら進めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1) 体調変化に関しては常勤の看護師へ連絡し必要な対応は出来ている。2) 対応変更等の情報は介護記録又は連絡事項で共有されている。(介護日誌に集中) 3) 個別介護計画の変更などで情報の共有に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	1) 一人一人の服薬状況と効用と副作用等を一覧にして確認できるようにしている。 2) 薬の変更がある場合は管理日誌・申し送り事項に載せ周知徹底を図っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	1) 充分取り組んでいる。毎食の献立では必ず野菜・繊維質の物を取り入れており、毎朝牛乳等の乳製品を提供している。 2) 毎日夕方には排便確認を行う。(自己管理できない利用者の場合は職員が便臭・排泄行動・下着の点検等で随時確認し異常があれば看護師へ連絡し対応している) 3) 毎日のリハビリ・体操やレクリエーション等で体を動かし排便刺激を図っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	1) 毎食後の口腔ケアの指導及び介助 2) 義歯使用者は毎日就寝時には外すなどの指導を行っている。 3) 口腔ケア用具の衛生的な管理を行っている。 4) 毎週1回義歯のポリドント洗浄・歯ブラシ洗浄 5) 自立者・半自立者への支援		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1) 摂取状況は介護記録に残し、毎月1回の『体重測定で』評価している。 2) 午前・午後それぞれ1回づつお茶の時間を設け、水分補給につとめ、又随時、嗜好品等の摂取を促している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	1) 感染症に対する予防マニュアルに沿って学習会等を行い、実行している。 2) 流行の時期には面会制限を敷く。 3) 面会者から食べ物の差し入れを制限し、差し入れ時は職員に一声かけていただくようにしている。(事故防止のため)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	1)毎週日曜日・冷蔵庫内点検・清掃 2)布巾・お絞りは毎日夕食後ハイター消毒(お絞りは毎回熱処理して使用) 3)食材の買ひだめはしない(米・乾物・缶詰以外)・生製品は1日おきに購入 4)食材は加熱した物を提供し、生ものは食中毒警報期間は使用しないことを原則とするがそれ以外の時期においても最小限としていく。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	1)玄関には車椅子対応のスロープ設置・階段の段差は低めで手すりを両側に設置している。靴脱ぎ場にはイスを用意して、座って靴の着脱が出来るようにしている。 2)外回りはコンクリートで整地してでこぼこをなくして歩行しやすくしている。歩行器での移動も可能で、安全に畑・庭を散策できるように配慮している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	1)居間・台所・食堂ともゆったりとしていて歩行器や車椅子がゆったりとすれ違えるようになっている。 2)季節の花を飾る・ひな祭り・端午の節句のこいのぼりなど季節感が味わえる工夫をしている。ベランダ等には季節の花木を置き鑑賞していただくようにしている。 3)随時切り絵や契り絵などを作成し、廊下の壁に貼り、季節感を出すようにしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1)一人になりたいとくのために、居間以外の場所にイスを置きくつろげるようにしている。2)ソファなども多目に用意し、全員が居間のイスに座れるように配置している。 3)座って縫い物ができる和式コーナーの設置と座卓も用意し、それぞれが思い思いに利用できるようにしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	1)希望された物は運びこめるように広さは充分にある。仏壇・筆筒・テーブルなど必要に応じてなじみの家具が配置されている。 2)本人の同意の元、配置換えなどで気分転換を図ったり、普段出来ない部分の掃除などに心がけている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	1)全室、自動換気となっている。各居室も1日に数回状況に応じて窓の開閉を行っているが体温調節が難しく一人一人の希望通りの温度調節は不十分であり常温を20度前後とし、寒い場合は衣服での調整としている。 2)トイレの臭いがとりきれない・汚物入れの点検はこまめに回収して入るが、利用者の中に使用後流せない方も多く入るためと思われる。 3)居室や居間・食堂は毎朝掃除の時間帯に窓の開け換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1)廊下・トイレ・浴室・玄関などには全て手すりが付けられている。又歩行器の必要者には提供されており、歩行障害があっても自立した生活が出来ている。 2)床はクッションフロアを使用しており、転倒時の衝撃が緩衝されるようにしている。 3)トイレには隙間無く手すりを設置している。4)トイレは歩行器・車椅子でも充分に入れるように広くなっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	1)水道の蛇口は自動になっているのと、手動のと2種類設置し、認知症が悪化しても手荒い等が出来るようになっている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	1)前庭に野菜畑・花畑を整地し、ベランダからでも降りて楽しめるようにしている。 2)花の盛りには窓からも眺められるようになっている。3)食堂の窓からは食事しながら桜・ライラックの花を眺められるように配置した。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <input checked="" type="checkbox"/>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/>②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

- 1) 地域の知人の方や役員の方々が気軽に尋ねてきてくださる・野菜農家の方の行商など気軽に訪問できる関係が出来ている。
- 2) 地域ボランティアの皆さんの応援が得られている。（特に夏場の環境整備＝草取り・整地・冬場の雪像づくりなど）とても助けられて運営できている。
- 3) 今後も地域への声がけを大いに発信し、交流を深める活動を続けて行きたい。